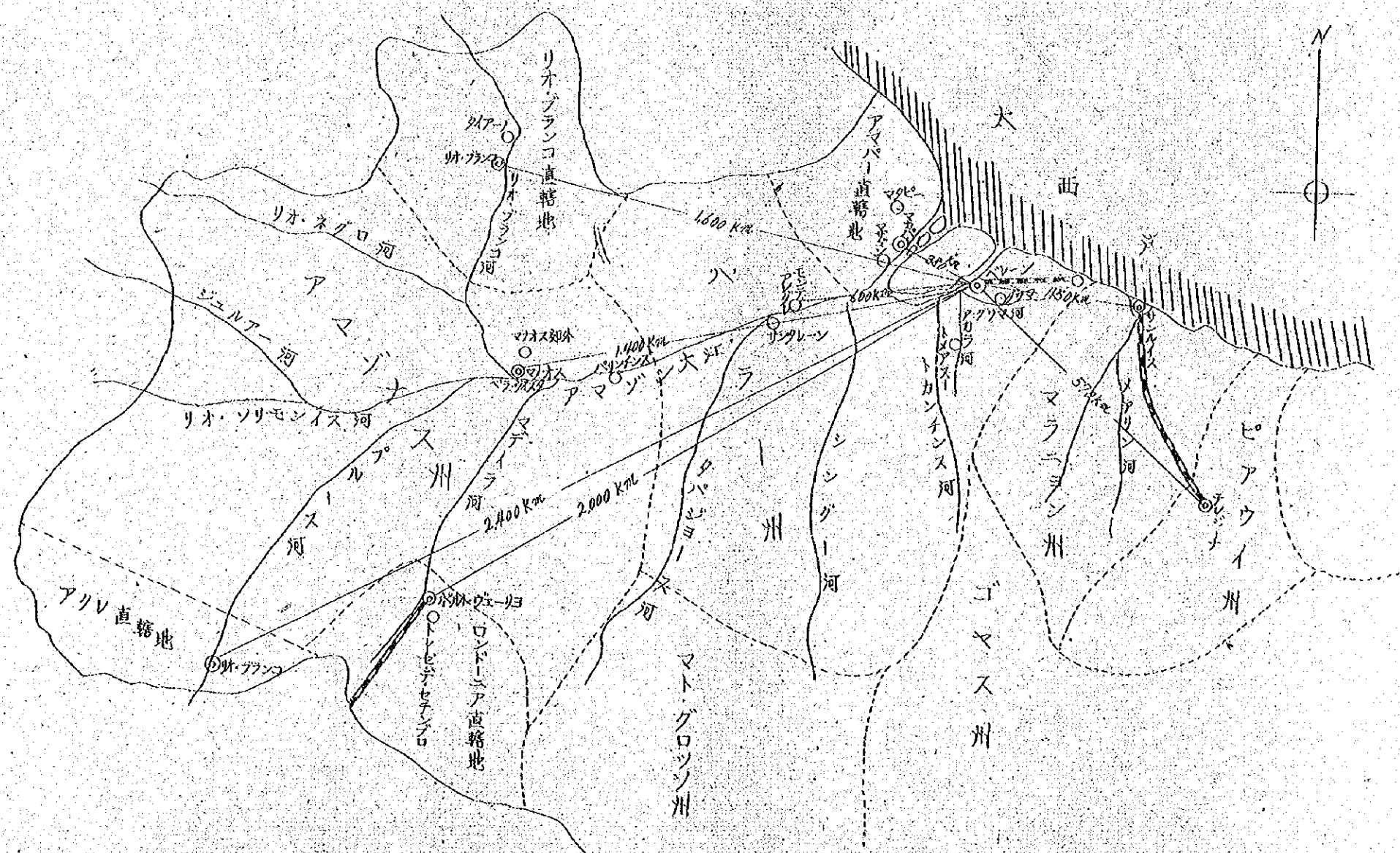


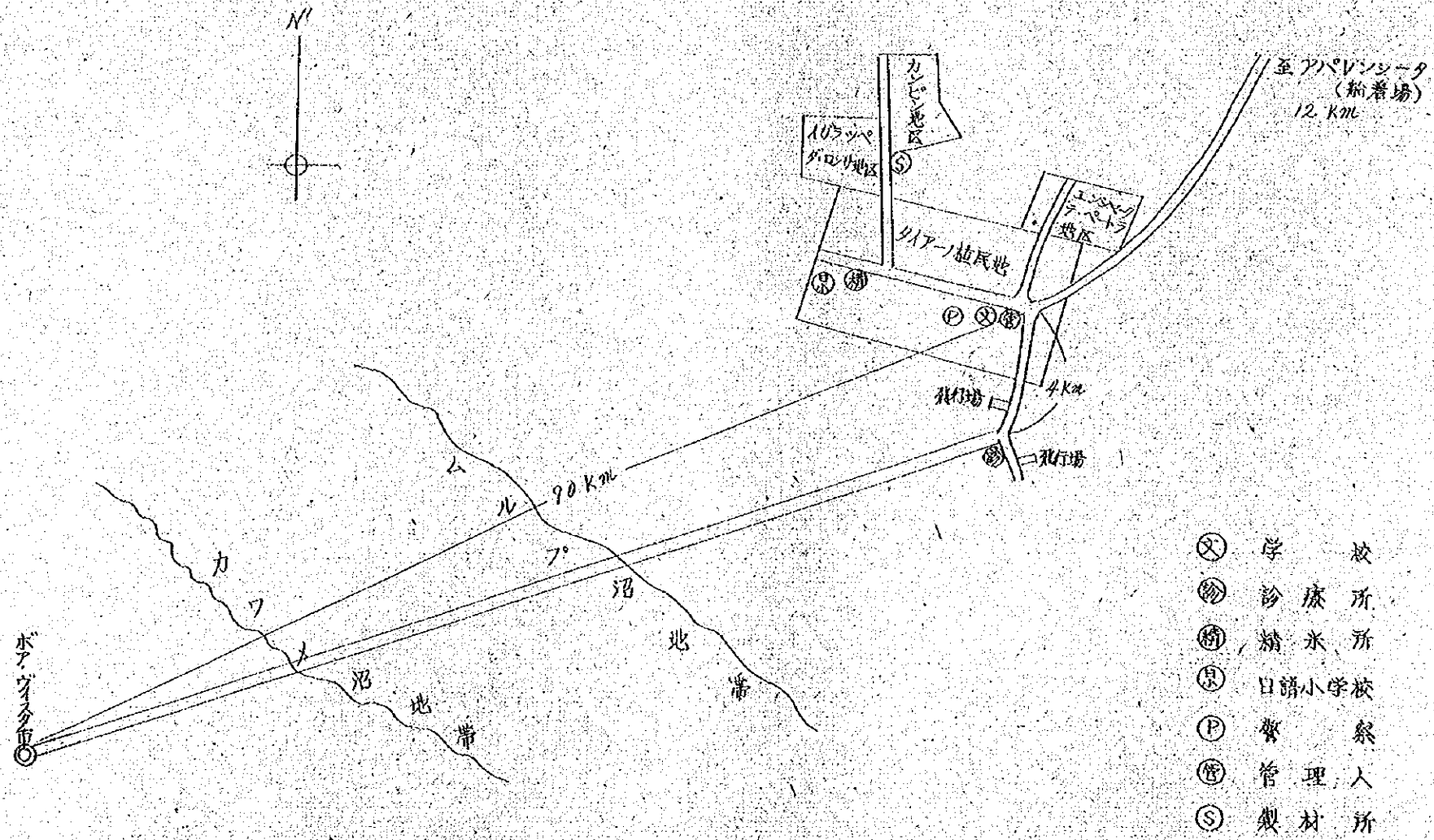
アマゾン地域入植者情況(才三輯) 目次

一	アマゾン地域邦人入植地分布図	(34)
二	タイアノ植民地	(35)
三	トレゼ・デ・セテンプロ植民地	(37)
四	ベラ・ヴィスタ植民地	(43)
五	マナオス郊外植民地	(48)
六	モンテ・アレグレ植民地	(51)
七	グワマ植民地	(56)
八	マタピー植民地	(63)
九	フアゼンジニヤ及びマカパト市近郊	(67)
十	マザゴン植民地	(70)
十一	モンテ・アレグレ種苗園	(73)

アマゾン地域邦人入植地分布図



タイアーン植民地略図



タイアートの植民地

一 所在地

リオ・ブランコ直轄地首都ボア、ヴィスタ市の東北々約九〇軒

二 運営主体

リオ・ブランコ直轄地政府

(備考)

本植民地はボア、ヴィスタ郡タイアートの地方に所在するため、俗にタイアートの植民地と称しているが、正式にはコロネル・モツ夕農業植民地と称する。

三 面積

- (一) 総面積 二〇〇〇町歩以上(推定)
- (二) 既耕地面積 二三〇町歩
- (三) 邦人所有面積 三四〇町歩
- (四) 邦人利用面積 七二町歩
- (五) 邦人一戸当り面積 三〇町歩 (但しボア、ヴィスタ歳次栽培者二家族は各五町歩)

四 入植者数

- (一) 総入植者数 五〇家族
- (二) 白人入植者数 三七家族
- (三) 邦人入植者数 一三家族 七六名

内訳

縁働人員	男	二一人
	女	一六人
非縁働人員	幼児	三九人
	老人	〇人

五 営農状態

別紙「邦人移住者営農状況統計表」参照のこと

六 教育

- (一) 名称 ルイズ・バルボーズ小学校

- (一) 面積 八米×一六米 一棟 トタン葺本建築
- (二) 教室 八米×八米 二部室
- (三) 教員 伯人(女) 二名
- (四) 児童数 伯人児童 一〇三名
邦人児童 一七名

(註) 伯人児童数は総て入植者の子弟に非ず、付近住民の子弟がその半数近くを占む。

(六) その他

日本人小学校(日曜学校)あり、面積六米×四米の椰子葺木造で、邦人児童の日本語教育に主眼をおく。授業は毎日曜日、教師、日本人男子一名

七、衛生状態

(一) 診療所 植民地より約四軒離れたバラタ部落に政府直営の診療所一棟あり

本年度、植民地内に一ヶ所新設される予定。

(二) 医師 医師不在、看護婦一名駐在するも、現在のところ不在勝ちなり。

(三) 診察 毎月一回ホア、ヴィヌタ市より医師が来診することになっているが、なかなか出張せず、殆んど診察なきものとみてよい。

(四) 治療費 薬品、治療費総て無料

(五) 薬品状態 薬品は常に不足勝ちにて、入植者は売薬を購入常備している。

(六) 一般衛生状態 一般に良好である。

八、道路交通

(一) 町までの距離 ホア、ヴィヌタ市まで陸路九〇軒、水路約一五〇軒

(二) 道路 道路は非常に悪く、未だ修理したことがなし、途中二ヶ所に川がある、か橋架なきため、五月より九月までの四ヶ月間は交通中絶となる。

その間、水路を利用するも定期便なく、時々通過の民間船を利用する。乗船地奥まで陸路一二軒あり、至極不便なり。

(三) 交通機関 乾燥期の同政府の自動車あり

他に個人所有自動車数台あり、

(四) 運行回数 政府トラックは不定期に毎月二、三回、個人所有トラックは週二、三回未達する。

船は不定期に月一、二回程あり。

(五) 運賃 政府トラックは運賃、生産物運搬共に無料

個人車は一袋に対し六〇¢〇〇、乗車賃二〇〇¢〇〇

(六) その他 小型飛行機があり、貸切り往復四〇〇〇¢〇〇以上を要し利用者少し

九 組合活動

(一) 組合名 タイアトノ農業協同組合

(二) 組合員数 二七名(満一八才以上男女)

(三) 組合長 中崎一馬

(四) 出資金 一七、〇〇〇¢〇〇

(五) 組合活動 組合結成後日なお浅く、また入植者が少数のために充分なる活動は行

われず、現在海協連貸与の精米機による精米事業、教育、衛生、文化

その他入植者に必要なる事項の連絡を行う。

十 その他団体

青年会、婦人会があるが、有名無実の状態である。

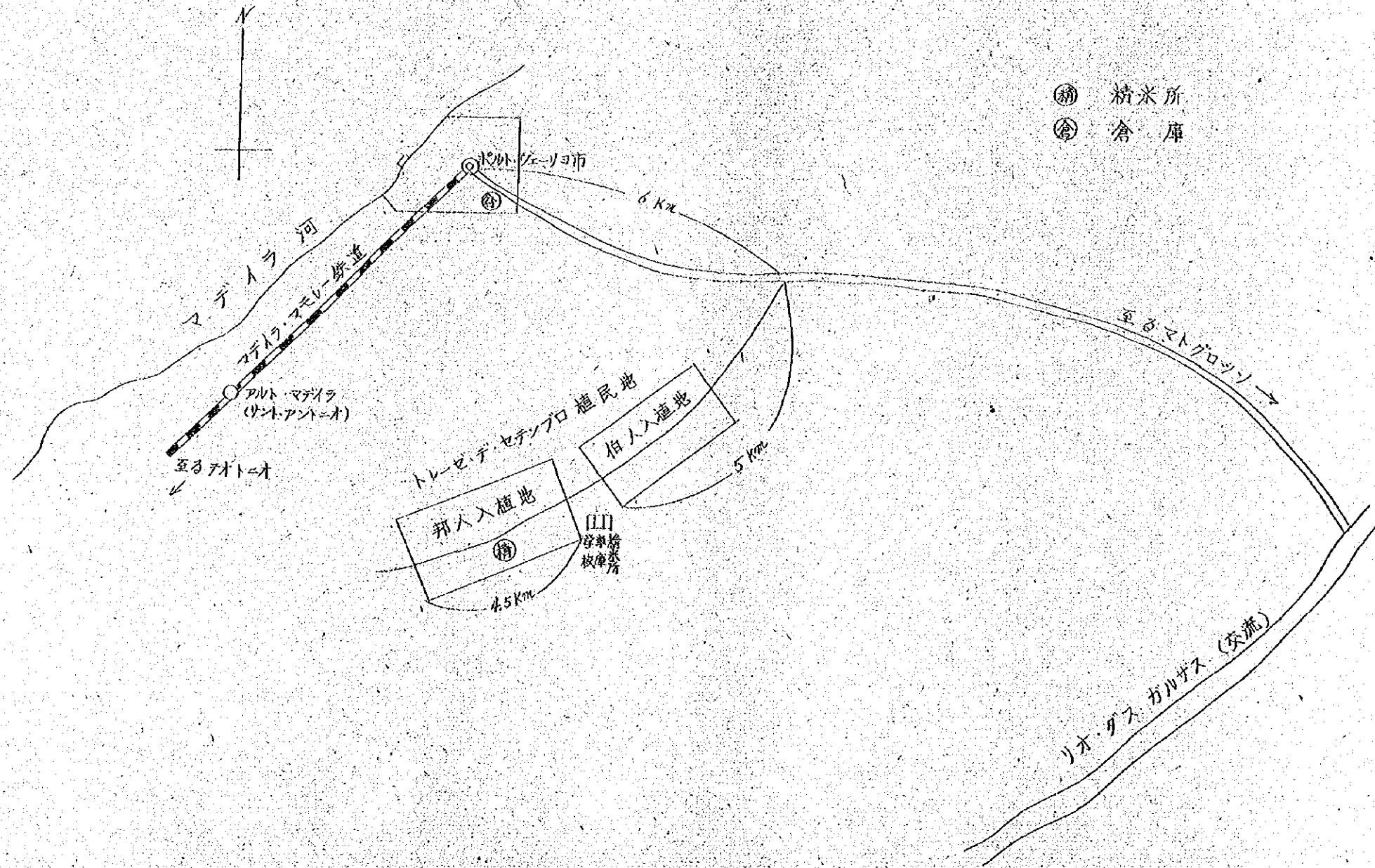
十一 その他

(一) 当植民地の問題の之一是、ホア、ヴィスタに通ずる道路にある。ニヶ所の架橋問題もあり、この解決には多大の費用を要するため、政治問題として解決するより方法なしと思われる。

(二) 入植者少数のため、組合活動、共同作業等に不便を感じており、オニ次入植者を必要とする。

(三) 当植民地はテーラ、ロソシマ地帯で、作物の成長も良く、従って多収穫を上げ得る好条件に恵まれた植民地であるが、三年に亘る旱魃のため永年性作物は相当数枯死して、一年性作物も減収する状態で、予想通りの成績を上げていない。

トレゼ・デ・セテンプロ植民地略図



トリーゼ・デ・セテンプロ植民地

一 所在地

ロンドーニア直轄地ポルトヴェーリヨ郡

首都ポルトヴェーリヨ市の南方九軒の地より始まる。

二 経営主体 ロンドーニア直轄地政府

三 面積

- (一) 総面積 一五七〇町歩
- (二) 既耕地面積 八三九町歩
- (三) 邦人所有面積 七二〇町歩
- (四) 邦人利用面積 四七四町歩
- (五) 邦人一戸当り面積 三〇町歩

四 入植者数

- (一) 総入植者数 四八家族
- (二) 白人入植者数 二四家族
- (三) 邦人入植者数 二四家族

内訳

綴切人員	
男	三六人
女	三四人
非綴切人員	
幼児	七〇人
老人	五人

五 営農状態

別紙「邦人移住者営農状況統計表」参照のこと。

六 放 育

- (一) 名 称 マリア・デオドロ・デ・フオンセカ小学校
- (二) 面 積 一ニ米×ニ〇米 トタン葺水造建築
- (三) 放 室 一ニ米×一ニ米Ⅱ一室、教員室Ⅱ一室、図書室Ⅱ一室
- (四) 放 員 白人(女) 一名

(五) 児童救 邦人児童 四六名

伯人児童 一四名

計 六〇名

(六) その他

二部教育 向食の配給あり。本年度政府より教員増員の約束あり。

七、衛生

(一) 診療所 植民地内にはないが、病気の場合はポルト・ヴェーリヨ市の病院を利用している。設備完全。

用している。設備完全。

(二) 診察 定期廻診なし。

(三) 治療費 有料と無料とがある。

(四) 薬品状態 有料なるも次の薬品は無料給付される。

破傷風、毒蛇の血清注射、マラリヤ薬一般、食血用薬、駆虫剤。

(五) 一般衛生状態 多少のマラリヤ病の発生もあるも、他に風土病、流行病なし。

(六) その他 入植以来現在まで病死者九名あり、主としてマラリヤ病後の衰弱および余病併発による。

八、道路交通

(一) 町までの距離 邦人耕地よりポルト・ヴェーリヨ市まで一一新

(二) 道路 最奥耕地まで雨通し、毎年一回修理を行うため、比較的良く管理されている。

(三) 交通機関

1 海協連貸与トラック 一台

2 直轄地政府トラック 一台

(四) 運行回教 毎週定期的に水、土の二回

(五) 運賃 乗車賃、荷物運賃共無料

九、組合活動

(一) 組合名 ロンドンニア産業開拓協同組合

(二) 組合員数 二四名

(三) 組合長 服部重五郎

(四) 出資金 五七六〇〇.〇〇

(五) 組合活動

1. 購買部 生活必需品、肥料、種苗購入
2. 販売部 米の共同販売を主とする。
3. 利用部 海協連債与のトラクター運管、共同施設の設置運管

十、その他団体

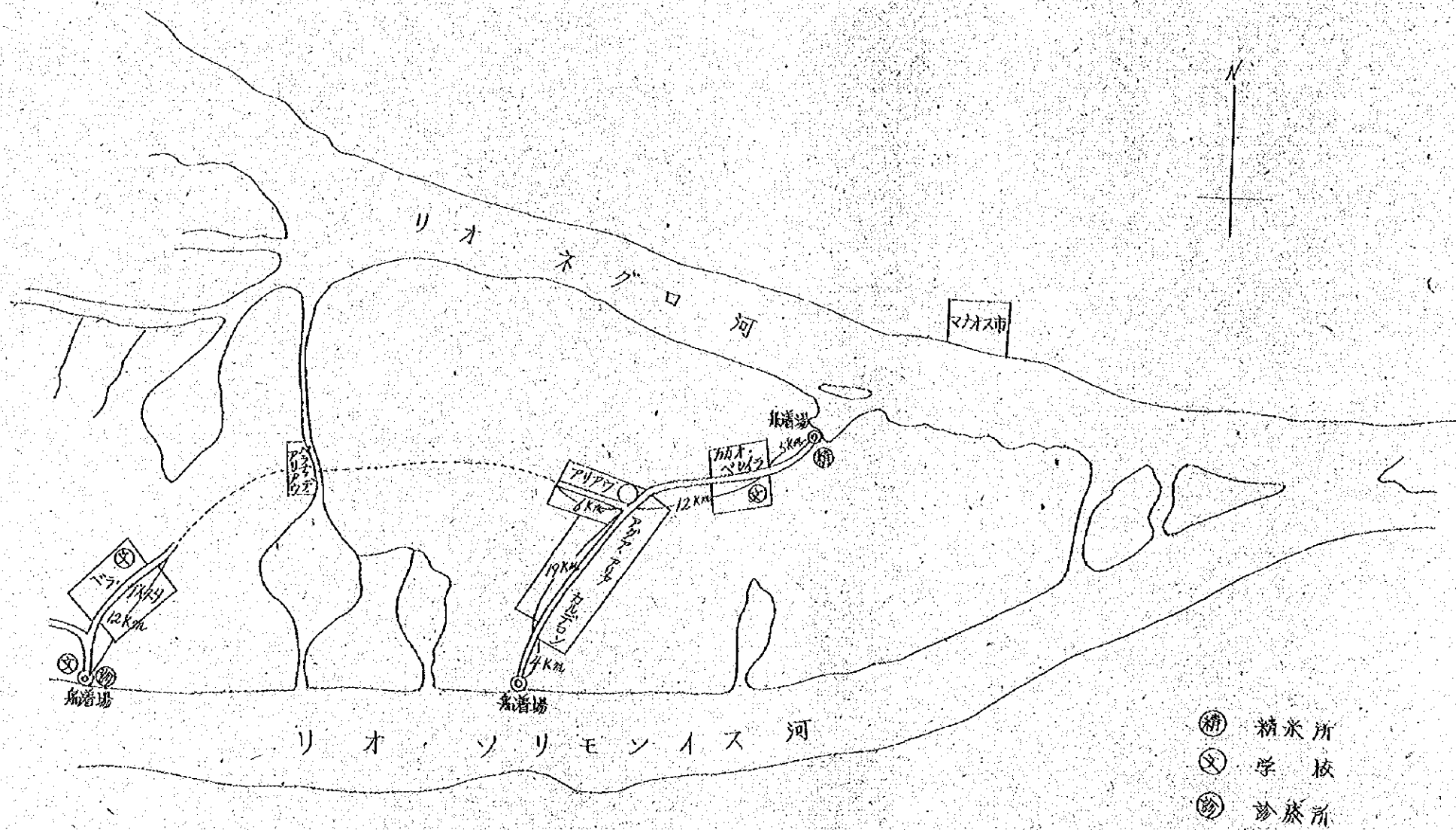
- (一) 青年会 娯楽催物一切、図書室開設および図書貸出し、一般文化教育問題
- (二) 婦人会 青年会と連絡して視察と生活改善運動を行う。

十一、その他

昨年末現直轄地知事就任後、入植地の発展に努力しており、トラクター一台、運搬用トラクター二台の本植民地配車を約束されている。

本植民地はコム栽培中心の団体、多角的農法を採用する団体およびその両方いづれにも服しない団体と三グループに分れており、この産業組合がこの三グループの連絡機関となっている。

ベラ・ヴィスタ植民地略図



ベラ・グイスタ植民地

一 所在地

アマゾン州首都マナオス市より約六軒離れたリオ・ネグロ河の対岸より始まり、マナカプルスおよびマナオス二郡に亘る。

二 経営主体 移植民院 (I.N.I.C.)

三 面積

(一) 総面積 一五〇〇〇町歩 (推定)

(二) 邦人所有面積 七五〇町歩

(三) 邦人戸当り面積 二五町歩

四 入植者数

(一) 総入植者数 約一七七家族 約七〇〇名

(二) 白人およびその他の入植者数 約八五家族 約五三一名

(三) 邦人入植者数

カルデロン地区 九家族 四五名

アリアウ地区 一〇家族 五四名

アグアフリア地区 三家族 一九名

カカオ・ペレイラ地区 六家族 三五名

植民地近郊 四家族 一六名

計 三二家族 一六九名

内訳

援助人員 男 五〇人

女 四六人

非援助人員 幼児 七一人

老人 二人

五 営農状態

別紙「邦人移住者営農状況統計表」参照のこと。

六 教育

(一) 名称 アリアウ・アツス中央小学校

カカオ・ペレイラ小学校

(一)	面積	アリアウ、アツス中央小学校	五米×八米	板瓦葺木造
(二)	教室	カカオ、ペレイラ小学校	八米×九米	瓦葺木建築
(三)	教室	アリアウ、アツス中央小学校	五米×八米	一部屋
(四)	教室	カカオ、ペレイラ小学校	三米×四米	一部屋
(五)	教室	アリアウ、アツス中央小学校	日系伯人(女)	一名
(六)	教室	カカオ、ペレイラ小学校	伯人(女)	一名
(七)	児童数	アリアウ、アツス中央小学校	伯人児童	一四名
(八)	児童数	カカオ、ペレイラ小学校	伯人児童	一一名
(九)	児童数	カカオ、ペレイラ小学校	伯人児童	一一名
(十)	計			五七名

七 衛生

- (一) 診療所 二ヶ所
- (二) 医師 医師不在、看護婦一名
- (三) 診察 なし、患者は全額マナオスに出自し診察を受く。
- (四) 治療費 無料
- (五) 薬 必要なる薬品乏しく、有料
- (六) 衛生状態 良好にして、何等風土病、流行病の発生なし
- (七) その他

植民地内の衛生設備は不完全にして、患者は設備の完全なマナオス市に赴き診察治療を受く。入植者五ヶ年間に死亡者六名にして、内事故死三名、日本より洋病の胃原二名、風邪一名。

八 道路交通

- (一) 町までの距離
カカオ、ペレイラ港よりマナオス市まで水路約六軒
カルデロンよりマナオス市まで水路約三〇軒
- (二) 道路

植民地内の道路は最悪条件にあり、坂道多く、入植以来殆んど修理したことなく、雨季には時々交通絶することあり。

(三) 交通経費

- 1. 海協連貸与トラツク 一台
- 2. 植民地トラツク 一台
- 3. 海協連貸与モートル船 一隻
- 4. 植民地モーター船 四隻
- 5. 個人所有船外モーター船 五隻

(四) 航回款

- 1. 定期便 陸水路とも毎週金曜日一回
- 2. 不定期便 入植者の要求により、不定期に何回でも運航

(五) 運賃

- 1. カカオ、ペレイラよりアグア、フリアマまでの乗車賃 一〇〇〇
- 2. カカオ、ペレイラよりカルデロンならびにアリアウ、アッスまでの乗車賃 一五〇〇
- 3. 荷物六〇斤まで全区共 五〇〇

- 4. 備車 カカオ、ペレイラ区内 二〇〇〇
- アグア、フリアマまで 二四〇〇
- アリアウ、アッスまで 二五〇〇
- カルデロンまで 二七〇〇

- 5. カカオ、ペレイラよりマナオス市まで(水路) 一〇〇〇
- 6. 同区内荷物 一〇〇〇
- 7. 備船(同区内) 一五〇〇

(六) その他

- 1. 陸路は上述の通り悪条件で、何時事故を起し人命を失うかも知れぬ危険状態にあり
- 2. 水上交通は至って便利なり
- 3. ベラ、ツイスタ地区に二家族在住するも、交通方面に關してはアグア、フリアマ地区に準ずる。

九 組合活動

当植民地は幾度か組合が組織されたが成功しなかつた、それは市場に近いたため各入植者が直接販売し易く、また邦人仲買人が数人いて、組合の育成強化が阻まれた。

十、その他田休

(一) アグア、プリア自治会

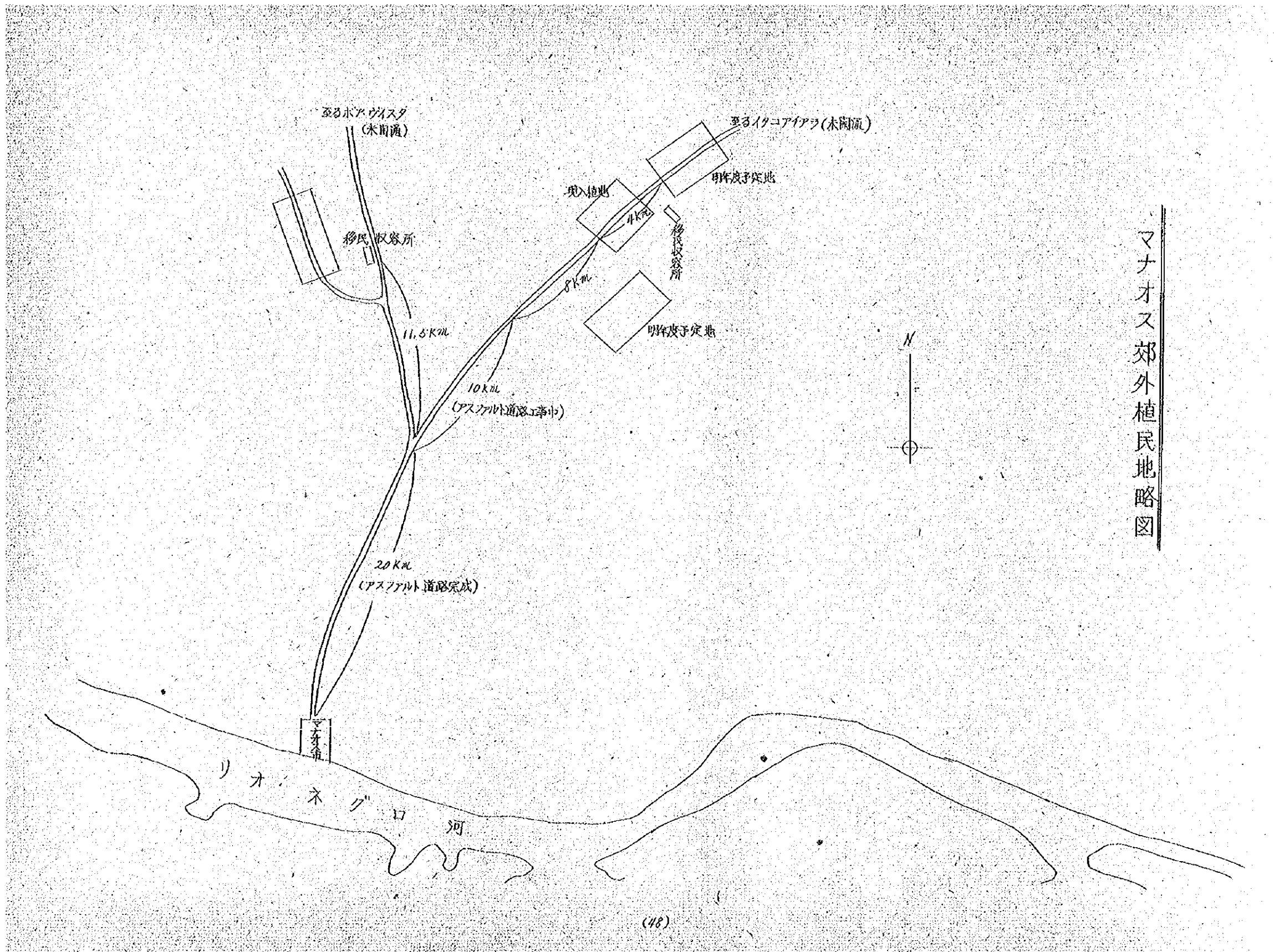
藤田猛氏を会長として、経済活動を離れて、入植者間の連絡ならびに海協連携等のトラツクおよび船舶の運営を行う。

(二) 青年会

最近結成されたが、何等具体的活動をしていない。

十一、その他

当植民地は入植当時より種々問題があり、脱耕者も多数出したが、現在残っている移住者は永年性作物の収穫もあり、マンジョ力栽培を中心とした落着きのある営農をしている。



マナオス郊外植民地略図

マナオス郊外植民地

一 所在地

アマゾンナス州マナオス郡

マナオス市の北々東三八軒より四二軒に亘る地矣

二 経営主体

アマゾンナス州

三 面積

(一) 総面積 不明

(二) 邦人所有面積 四二五町歩

(三) 邦人ふ当り面積 二五町歩

四 入植者数

邦人入植者数 一七家族

一一八名

内訳

僚働人員 五九名

非僚働人員 五九名

五 啓蒙状況

昨年十一月に入植したばかりで、しかも入植時期を失したので見るべきものはない。初年度は一戸当り三町歩宛山伐りを行ったが、山焼きを失敗した耕地もあり、各戸共相当苦勞している。永年性作物の植付を真剣に考えているが、種苗の入手か思うに任せず難儀しているが、一部の者は野菜栽培に力を入れ、その成績は良好で、近く市販の出来る段階にある。

六 教育

近く植民地内に小学校が建設される予定である。

七 衛生

(一) 診療所 近く設置の予定

(二) 医 者 月一回マナオス市より来診、看護婦なし

(三) 治療費 無料

(四) 薬 品 常備なし

(五) その他

入植早々は、長途の旅に疲れた身体に気候の変化を受けたため、下痢およびマラリア症状の病気に悩まされたが、現在全員元気で営農に励んでいる。

なお、重患者の他手術を要する患者はマナオス市の病院に入院させ、無料で治療をしてくれる。

現在までの死亡者三名、内難産による者二名、狭心症一名

八 道路交通

(一) 町までの距離 植民地入口よりマナオス市まで陸路三十八軒

(二) 道路

マナオス、イタコアチアラ本道に沿う植民地で、道路は新設のものであり、舗装も殆んど植民地の付近まで完成しており、年内には移民収容所まで舗装されるので、交通状態は非常によい。

(三) 交通機関

海協連隊員のトラック(五八年型フォード六輪車)が配属されており、定期運行を行っている。

九 組合活動

近く結成の見込み

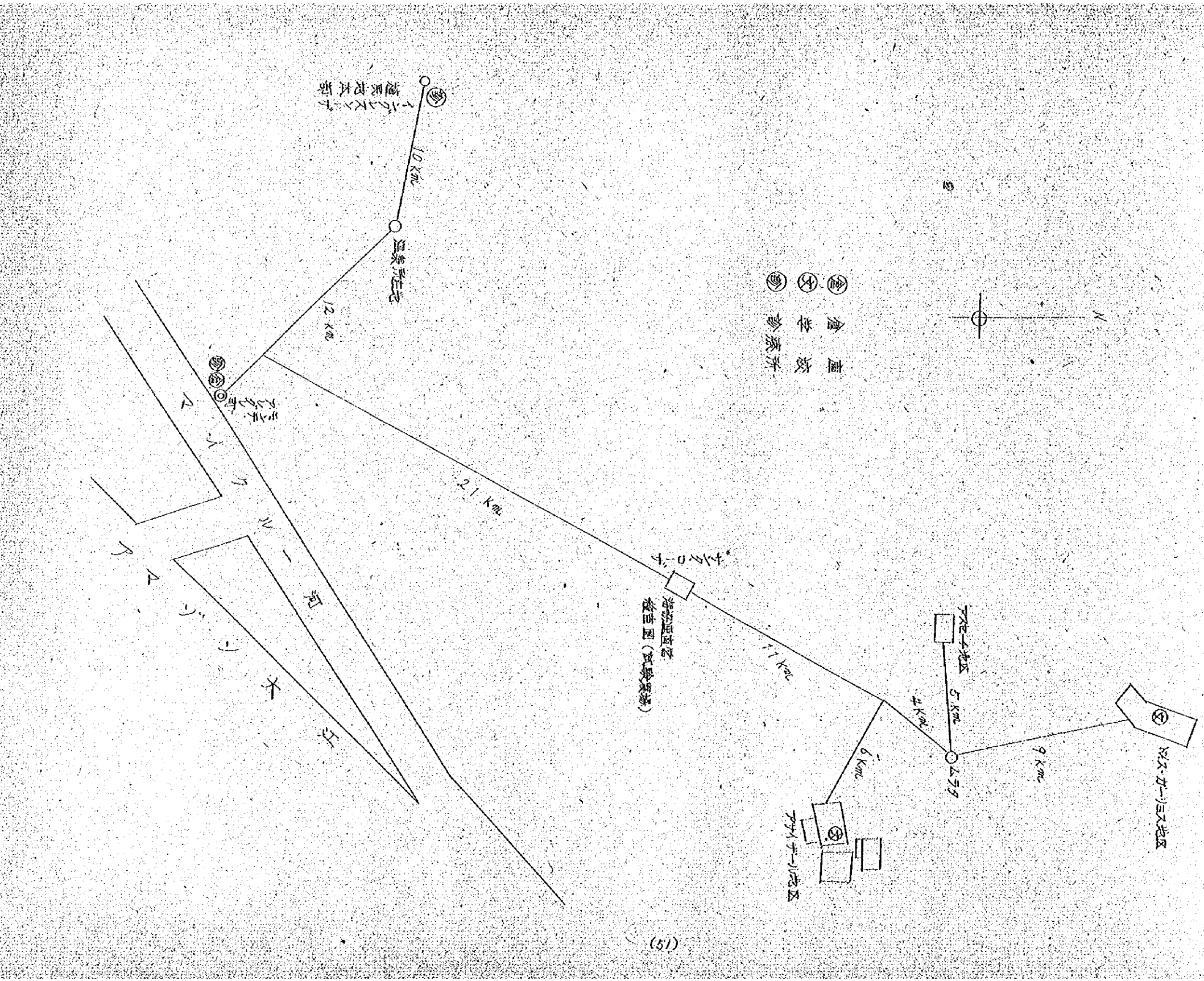
十 その他団体

青年会

十一 その他

植民地自体創設早々であるので、施設不十分なことは致し方なく、また入植者も昨年十一月に入植したばかりで、大半が収容所に起居して自己のロッテに働きにくいような有様であるので、これといった仕事ぶりもないが、今年八月にオニ陣入植者が到着することにもなっており、追々施設も整備されることが期待され、また市場に近く、輸送路が完備していることは、生産物さえ出れば幾らでも販けるという立地条件に恵まれていることであり、将来の見通しは非常に明るい。

モンテ・アヴェグレ植民地略図



モンテ・アレグレ植民地

註II 本表では便宜上アスセーナ地区をアサイザール地区に含めている。

一 所在地

パラナ州モンテ・アレグレ郡モンテ・アレグレ町より

1. アサイザール地区入口まで 三八軒

2. ドイス、ガリーヨス地区入口まで 四五軒

3. アスセーナ地区入口まで 四一軒

二 経営主体 移植民院 (I.N.I.C.)

三 面積

(一) 総面積 三六〇〇〇町歩

(二) 既耕地面積 不明

(三) 邦人所有面積 二七六〇町歩

(四) 邦人一人当り面積 四一、八町歩

註I 退耕者の耕地を購入したため、平均一人当り面積が増大した。

四 入植者数

(一) 総入植者数 約一〇六四家族 約五〇〇〇名

(二) 邦人入植者数 約一〇〇〇家族

(三) 邦人入植者数 六四家族 三九二名

アサイザール地区 三五家族 二〇七名

内訳

縁坊人員 男 七六名

女 四五名

非縁坊人員 幼児 八五名

老人 一名

ドイス、ガリーヨス地区 三九家族 一八五名

内訳

縁坊人員 男 六一名

女 四六名

非縁切人員 幼児 七五名

老人 三名

五、学歴状態

別紙「邦人移住者学歴状況統計表」参照のこと

六、教育

- (一) 名称
 - アサイザール小学校
 - トイス、ガリヨス小学校
- (二) 面積
 - アサイザール小学校 六米×一〇米 板瓦葺木造
 - トイス、ガリヨス小学校 四米×一三米 瓦葺木造
- (三) 教室
 - アサイザール小学校 六米×一〇米 一室
 - トイス、ガリヨス小学校 四米×八米 一室
- (四) 教員
 - アサイザール小学校 一人(女)
 - トイス、ガリヨス小学校 一人(女)
- (五) 児童数
 - アサイザール小学校 邦人児童数 四二名
 - トイス、ガリヨス小学校 邦人児童数 四一名

(註) 両校とも邦人児童なし

アスセーナ地区では就学児童三名がムラタ小学校に通学している。

(六) その他

教師は小学校卒業程度で学力なく、また独身のために気休に休業して授業が充分行われない。

七、衛生

(一) 病院、診療所

植民地事務所診療所一箇所あり、医師一名および看護婦三名駐在するも、邦人入植地に遠く距っているため殆んど利用出来ない。大部分はモンテ・アレグレ町に出市し、SESP診療所を利用している。重症はサンタレイン市のSESP病院に入院する。

(二) 診察

(三) 治療費

(四) 薬品

(五) 衛生状態 良好
(六) その他

急患に対しては、植民地本部に連絡して医師を派遣して貰うこともある。
快方に向わぬ患者は、モンテ・アレグレ町に在る組合倉庫二階を病室として引き
移り、医者の指示により加療する。

ハ 道路交通

(一) 町までの距離

アサイザール地区よりモンテ・アレグレ町まで 三八軒
ドイス・ガリリヨス地区よりモンテ・アレグレ町まで 四五軒
アスセーナ地区よりモンテ・アレグレ町まで 四一軒

(二) 道路

州道も入植地内道路も、改修されぬため悪い。
ドイス・ガリリヨス地区では邦人入植者によりフモト橋を新設した。
アサイザール植民地内に二箇所、またモンテ・アレグレ町よりドイス・ガリリヨ
スに赴く三十八軒の地点に一箇所それぞれ急坂があるが、州政府も植民地側も何
等改修を行っていない。

(三) 交通機関

当支部発足のトラックが、アサイザール地区へは毎週水曜日、ドイス・ガリリヨ
ス地区へは金曜日にそれぞれ定期的に通り、またアサイザール地区へは白人所有
トラックが毎週金曜日配達されている。

但し、出荷最盛期中はアサイザール地区へ毎週月、火、水の三日、またドイス・
ガリリヨス地区へは水、金、土の三日運行している。

(四) 運賃

アサイザール地区⇨モンテ町間 一人または一俵 三〇〇〇
備車(七十俵) 三〇〇〇
ドイス・ガリリヨス地区⇨モンテ町間 一人または一俵 三〇〇〇
備車(六十俵) 二〇〇〇

九 組合活動

- (一) 組合名 モンテ・アレグレ産業組合
- (二) 組合員数 五八名

(三) 組合長 石黒条吉

(四) 出資金 二一、一〇〇、〇〇〇

(五) 組合活動

1. 購買部 生活必需品の購買
2. 販売部 生産物の販売
3. 信用部 預金ならびに農業融資
4. 利用部 自動車の運営

また自己の倉庫をモンテ・アレグレ町にもっている。

本組合はアマゾン地域邦人入植者の組合としては最も強力なものである。

十、その他団体

(一) ドイス、ガリーヨス地区青年会

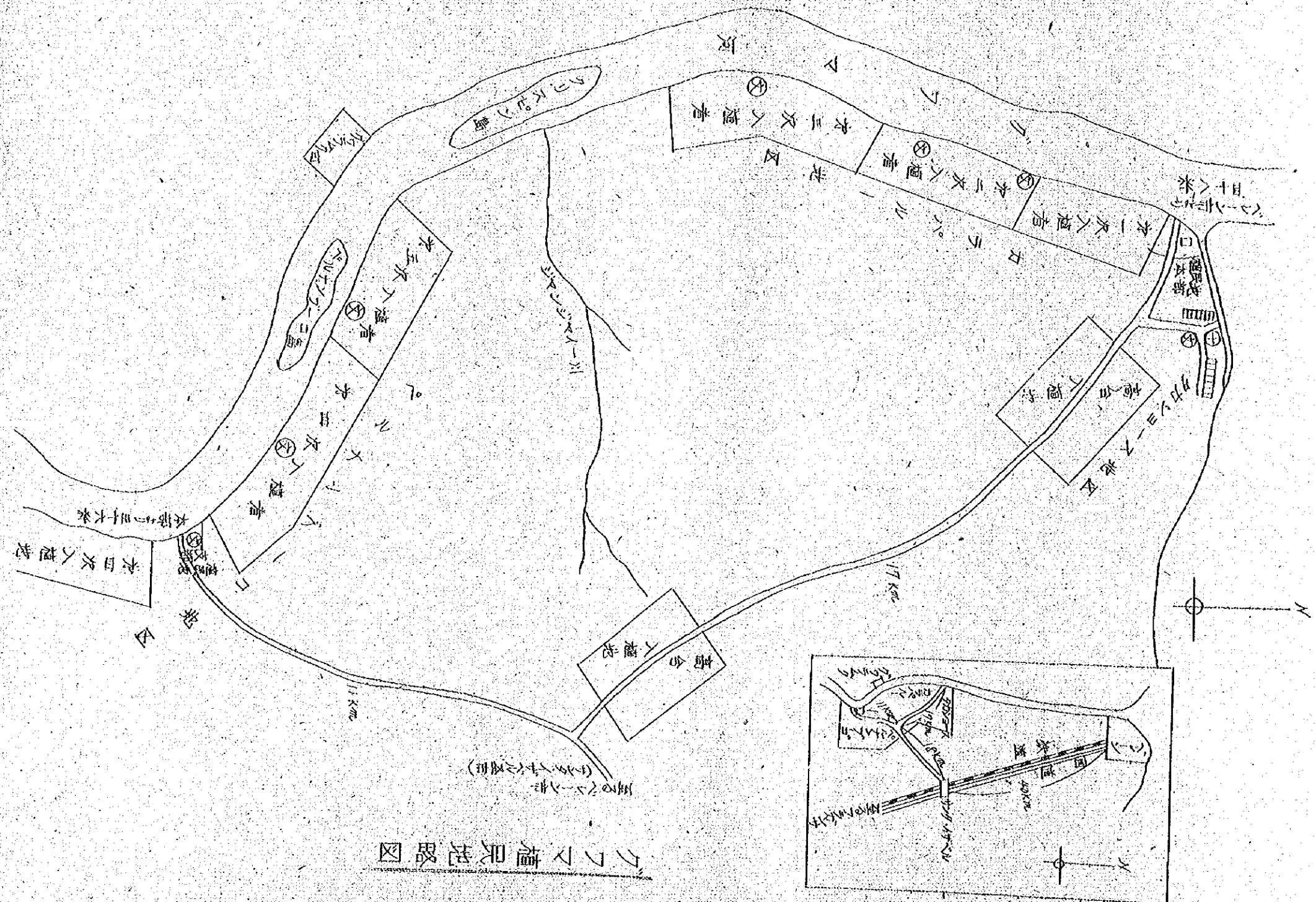
各種催物、機関紙「モンテ・アレグレ」の発行(月一回)、公民館の運営
病人発生による人手不足家族に対する勤労奉仕

(二) アサイザール地区青年会、各種催物

(三) 婦人会、時々料理講習会を行う。

十一、その他

この植民地の長所は土壌がテラ・ロシマおよび準テラ・プレタから成っている
処多く、地味肥沃のため作物の成長よく、従って収量も多い。またベレーンとマナ
オスの中間に在るので、両都市へ容易に出荷出来るのが強味。



クラー河灌漑地図

クワマ植民地

一 所在 地

パラー州首都ブレイン市よりクワマ河沿いに、上流四十八料の地畠より始まり、約四十料（うち六料は私有地）、前面を持って拡がり、シヨアンコエーリヨおよびイニヤンガツペー河郡に跨る。

二 本營 主体 移植民院 (I.N.I.C.)

三 面 積

(一) 総 面 積

三、五一〇町歩

うち、ペルナンブーコ地区

二、三六八〇町歩

カラパルー地区

九、八三〇町歩

(二) 既耕地面積

二、三一一町歩

(三) 邦人所有面積

二、二〇〇町歩

うち、ペルナンブーコ地区

一、〇八〇町歩

カラパルー地区

一一二〇町歩

(四) 邦人利用面積

二、五二町歩

(五) 邦人一戸当り面積

二〇町歩

但し所有面積中低濕地多くして利用可能面積が減少されるところもある。

四 邦人入植者数

(一) 総入植者数

一八八家族

九九七名

(二) 白人および外人入植者数

七九家族

三九八名

(三) 邦人入植者数

一〇九家族

五九九名

うちペルナンブーコ地区

五五家族

二九五名

内 訳

移植人員

男 一〇一名

女 八三名

非移植人員

幼児 一一〇名

老人 一名

カラパルー地区

五四家族 三〇四名

内 訳

被働人員 男 九三名

女 九五名

非被働人員 幼児 一二五名

老人 二名

五 労働状態

別紙 「邦人移住者労働状態調査表」参照のこと

六 教育

(一) 名称 タカシヨース小学校

ペルナンブーゴ小学校

(二) 面積 タカシヨース小学校

六米×二〇米 瓦葺本建築一棟
六米×一五米 瓦葺本建築一棟
六米×八米 瓦葺本建築一棟

一三米×一三米 瓦葺本建築一棟

(三) 教室 ペルナンブーゴ小学校

六米×八米 二部屋
六米×一〇米 一部屋
六米×六米 一部屋
六米×四米 一部屋
六米×五米 給食作成室一部屋

二米×二米 一部屋

伯人 (女) 一〇名

伯人 (女) 三名

日系伯人 (女) 一名

計 一四名

伯人児童 二六名

邦人児童 一〇九名

伯人児童 五〇名

邦人児童 一三一名

計 五〇六名

但しこの児童数は、入植者ならびに植民地販賣の子供だけではなく、付並住民の子供

を含む

また入学手続だけして就学してはいるが形骸あり

(5) その他

カワマ植民地は略々四十軒に互る広地域に入植して居るため、就学上の便が悪く、来年度ペルナンブーコ地区二校、カフバルー地区三校を開設し、各校に教師一名を配置する計画であり、来年度新学期より実施することになって居る。教室の不足により、現在二部教育を行って居る。

七 衛生

(一) 病院診療所

病院はタカジョース地区に一棟あり、五畳本建築で、診察室、治療室、手術室、産室、歯科室、および病室三部屋を有し完備して居る。

診療所はペルナンブーコ地区に一棟あり、五畳本建である。

(二) 医師看護婦

医師および歯科医各一名が、タカジョース病院とペルナンブーコ診療所を交互に診療治療しているが、植民地勤務は週平均四日位である。別に看護婦がタカジョース病院とペルナンブーコ診療所とにそれぞれ二名宛常駐して居る。そのうちの一名がそれぞれの地区内を巡回して居る。但し看護婦四名のうち二名は無免許と思われる。

(三) 治療費

診察治療は無料であるが、薬品は有料で、各自の負債となる。重患は植民地勘定にてペレイン市の病院に入院させるが、その費用は個人の債務に振替えられる。

(四) 薬品

予算の関係で不足勝ちであり、必要なる常備薬少し

(五) 一般衛生状態

気候の変わり目の二、三月および七、八月には相当数のマラリヤ患者が発生したが、入植者が気候風土に馴れるに従い、且つまた最近経済的にも幾分向上を来し、食料事情も好転したため、病気の発生は減少しつつある。その他には何等恐るべき風土病も流行病もない。

(六) その他

日本からの荷病による病死者が五名あった。

八、道路交通

イ 町までの距離

カラバルー地区よりベレーン市まで 水路四十八軒 陸路七十五軒

ペルナンブーゴ地区よりベレーン市まで 水路八十四軒 陸路六十九軒

ロ 道路

カワマ植民地タガジョース地区よりベレーン市までの陸路は十一月上旬に開通したが、未だ完成してはいない。他方ペルナンブーゴ地区よりの道路も建設中であつて、熟れも明年六月頃完成の予定である。

耕地向には不完全ながら道路があるが、小川多く、架橋困難のため、自動車は通らなかつた。主としてモーター船に依存してける。

ハ 交通機関

一、植民地船舶 二、三隻（四の屯、三の屯および八屯積）

ベレーンまで毎週土曜日に定期航路を行う外、不定期に週平均二回航路する。

二、海協連貸与船 二、一隻（十屯積）

定期的に毎週火、水、土の三回ベレーン市に往航、その翌日植民地に復航する。主として生産物輸送に從事する。

三、植民地貨物自動車 二、三台

道路完成後毎週火、土の二回ベレーン市まで定期運行を行う予定で、現在は植民地内の運輸を専門にしてける。

四、入植者所有モーター船 二、四隻（熟れも一屯積前後の小型）

五、その他

近く海協連よりもう一隻十五屯積モーター船が貸与されることになり、目下建設中。

また道路完成後六屯積新車を貸与（海協連支那で保管中）、高台入植者の便宜を図る。

ニ 運賃

一、植民地船舶

定期便の場合および生産物輸送については無料であるが、不定期の場合は一五%

之 海協理貸与銘

植民地内

六才未満銀料	六才以上五Cob.〇.〇
六才未満銀料	六才以上四〇Cob.〇.〇

ベレーンリ 植民地内

荷物	二五Cob.〇.七〇Cob.〇.〇
バナナ一房	一〇Cob.〇.〇
	五Cob.〇.〇
	三Cob.〇.〇

九 組合 活動

(一) クワマ植民地産業組合

1. 所在地 クワマ植民地ペルナンブーコ地区

2. 組合員数 五八名(伯人五名を含む)

3. 組合長 山本繁

4. 出資金 五八〇,〇〇〇Cob.〇.〇

5. 組合活動

- (1) 購買部 生活必需品、肥料、農具の購買
- (2) 販売部 生産物販売
- (3) 信用部 預金取扱ならびに農業融資
- (4) 利用部 船泊、トラクターの運管ならびに管理

(二) クワマ植民地第一産業組合

1. 所在地 クワマ植民地カラパル地区

2. 組合員数 二四名

3. 組合長 林 徹

4. 出資金 二四〇,〇〇〇Cob.〇.〇

5. 組合活動

- (1) 購買部 生活必需品、肥料、農具の購買
- (2) 販売部 生産物の販売
- (3) 信用部 預金取扱ならびに融資
- (4) 利用部 船泊、トラクターの運管ならびに管理

十、その他団体

(一) ペルナンブーコ自治会 会長 谷口明水

ペルナンブーコ地区入植者全家長五四名が加入し、各種催物、道路管理、教育、その他自治上必要なる事業を行う。

(一) 一八会、会長、林徹

才三次入植者十五家族が入植して、各種催物、医薬の共同購入、道路管理、日曜学校、農事研究、婦人会結成、団体交渉その他自治上必要なる事業を行う。
なお毎月八日に定期例会を行う。

(二) 才四次農事研究会、会長、今野大八

毎月一回以上集合して農事研究を行う、会員十一名

(三) 才五次農事研究会、会長、米倉豊

毎月一回以上例会を前さ、農事研究を行う、会員六名

(四) 宮崎県人会、会長、梶村行教

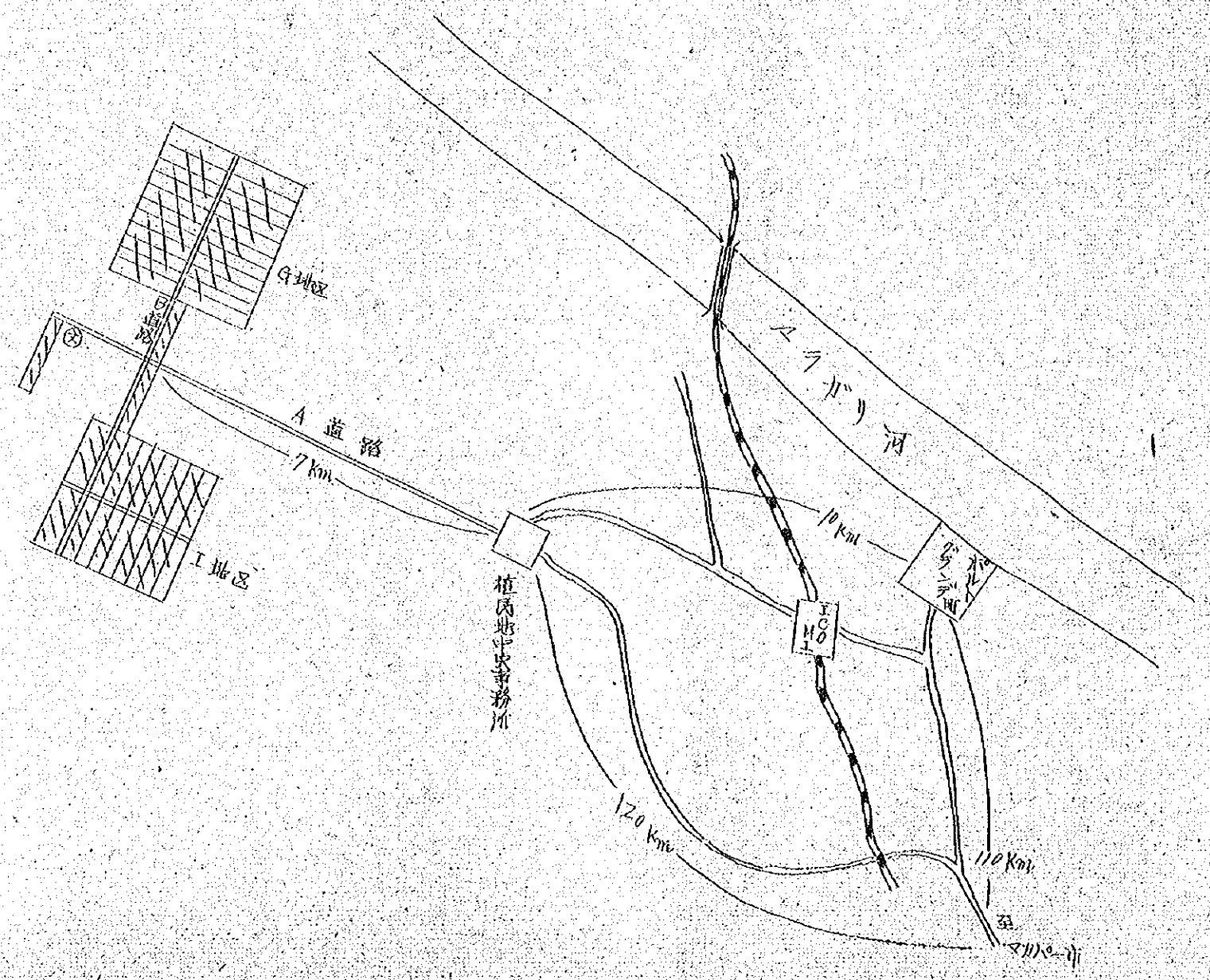
県人の親睦機関で、事業は行わぬ、会員十二名

(五) 才三次親母子講、会長、斎藤市吉

会員十名によって組織され、会費五〇〇円を払込み入札で落す、毎月才四日曜日に集会する。



マタレ植民地略図



マタビ―植民地

一 所在地

アマパ―直轄地マガパ―郡に在り、首都マガパ―市の北方一ニ七軒の地より始まる。

二 本管主体

アマパ―直轄地政府

三 面積

(一) 総面積 四八七五町歩

(二) 既耕地面積 一三九〇町歩 (うち再生林三〇五町歩)

(三) 邦人所有面積 一七七〇町歩

(四) 邦人一戸当面積 三〇町歩、五〇町歩

退耕者の耕地をその負債を肩替りして引受け、二耕地を所有する者あり。

(一) 総入植者数 六六家族

(二) 白人入植者数 四一家族

(三) 邦人入植者数 二七家族 二四一名

内訳

稼働人員 男 五三名

女 三八名

非稼働人員 幼児 五〇名

五 管農状況

別添「邦人移住者管農状況統計表」参照のこと

六 教育

(一) 名称 農村才ニ小學校

(二) 面積 一三米×一三米 トタン葺本建築

(三) 教室 六米×六米 一部屋

(四) 教員 白人 (女) 一名

助教員 日系帰化白人 (女) 一名

(五) 児童数 白人児童数 六名

邦人児童数 二九名

⑤ その他

本年度新学期よりマカパリー市の小・中学校への入学希望者が多数いる。

七、衛生

(一) 病院診療所

診療所はあつても名目だけで、病気の時はマカパリー病院に行く。

(二) 医師看護婦

現在植民地にはいない。

(三) 診療

一昨年まではマカパリー市より週一回未診してしたが、現在行われていない。

(四) 治療費

特別の場合を除いて無料。

(五) 薬品

常備なし

(六) 一般衛生状態

良好

(七) その他

再度政府と交渉して、医師の派遣および薬品の常備を申請したが、実現を見ていない。

八、道路交通

(一) 町までの距離

ホルトクランテまで

一七キロ

マカパリー市まで

一三七キロ

(二) 道路

マカパリー市より植民地入口までは平原であるため、道路はよく管理されているが、植民地内は坂もあり、悪路である。特に雨季には交通不能の場合がある。

(三) 交通機関

海協連支部貸与のトラックがあるが、故障のため運用中である。

直轄地政府のトラックは毎週月、土の二回定期便（往復）として運行している。

その他必要に応じて頼り得る個人所有のトラック便（不定期）あり。またホルトクランテからは毎日汽車の便がある。

(四) 運賃

植民地よりマカパリー市まで 乗車賃 三〇C/P

生産物 無料

(詳) 運転手により有料の場合もある。

(五) その他

出荷日が月・土曜のため日曜日の販売が不可能であるので、入植者一同は一週間に
くマカパリー市に滞在しなければならず、非常に不利不便を感じている。

九 組合活動

アマパリー産業協同組合が名のみ存在してはるが、内紛のため現在活動停止状態にある。
十 その他団体

なし

十一 その他

なし

マサゴン及びブラゼンジア植民地略図

